

女子小学生フィギュア熱高まる

トリノ五輪の女子フィギュアスケートで金メダルに輝いた荒川静香選手（プリンスホテル）の活躍や、ミラクル・マオの愛称で知られる浅田真央選手（ケランプリ東海ク）らへのあこがれから、女子小学生の間でスケート人気が急上昇している。リンク数は減少傾向にあるものの、スケート教室の参加者数やリンクへの入場者数は増加。シーズン終了間近というのに、全国各地のリンクには「スケートに挑戦したい」という問い合わせが殺到している。

（舛田奈津子）

■「ミキティ」になる

荒川選手のコメダ賞獲得から二百たった二月二十五日。スケート教室が開催された「大阪府立門真スポーツセンター」

私も！アーバナー

（門真市）は、三百人を超える親子連れの熱気に包まれた。教室は十二月の冬季限定。参加者は小中学生を中心に四歳から五十代までと幅広く、五輪に出場した高橋大輔選手（関西大学）の影響もあり、今年は男児の参加も多いという。

■30分で受付終了

教室は六つのレベルに分かれ、「歩く」「足幅を広げたり狭めたりする」「ひょうたん型滑走」「バックステップ」とい

リンク満員、競技人口拡大なるか

った基本を練習する。ほとんどの初心者で、第二の金メダリストへの道は遠いが、足下を見つめる子供たちの表情は真剣そのもの。カメラ片手の親たちからは「前を見て」「両腕を伸ばして」と激励が飛ぶ。

■30分で受付終了

「五輪の年であり、これを広げたい」と話した。参加も多いという。

「前を見て」「両腕を伸ばして」と激励が飛ぶ。



◆第二の荒川静香、を目指して真剣な表情で練習に取り組む子供たち
—大阪府門真市の門真スポーツセンター—

込みがあった。

■環境整備に期待

しかし、肝心のリンク数は減少傾向にある。文部科学省などの調査によると平成七年の約二百五十力所が、現在は約百八十力所に。そのうち、近年のリンク開放は約二十力所程度。練習を続けたくても、多くの子供たちは春から夏にかけての練習を断念せざるを得ないのが現状だ。

H18.3.7

浅田選手や安藤選手の地元でスケート人気が高い名古屋市の「名古屋スポーツセンター」では、三月末開催の春休み短期コースの定員百人が、受け付け開始三十分で満員に。「シチズンアイスドヤシヨートトラックでも活躍できる選手が生まれるはず」と期待を寄せられている。